



「しまなみ海道」サイクリングの旅
2009・5・23(土)～24(日)

主催 サイクルボランティア・ジャパン (CVJ)
青い鳥ことばの会

「しまなみ海道」(本州～四国間の瀬戸内海80km)を2年
間かけてサイクリングで横断する計画の第2年目の記録。

— 報 告 集 —

09年「しまなみ海道」イベント!!

思いやりと感動にあふれた

2日間!

<2年間にわたって「しまなみ海道」の美しさを満喫しつつ、

本州⇄四国の横断達成!!>



【 I 】 二日間の概要

<企画担当> 大島 政広



昨年が続いて「サイクルボランティア・ジャパン」と「青い鳥ことばの会」が共催しての「しまなみ海道イベント」(2009年)は、晴天に恵まれた5月23日(土)～24日(日)の両日64名の参加で「しまなみ海道」開通10周年記念のすばらしい行程をエンジョイしま



した。

参加者の内訳は「障害」をもった方23名(視覚「障害」1名、車イス使用者3名、知的・「自閉」など発達「障害」19名)、CVJボランティア12名(内、関東から6名)、一般ボランティア12名、現地ボランティア6名、ゲスト2名、家族など9名と幅広い参加者が集いました。

<第1日目> 5月23日

< 出発から昼食まで >

2日間の行程の最初は、まず枚方市、茨木市2カ所の3つの場所からバスに乗り込み、イベントスタート地点の愛媛県今治市に向け出発。

バスと一緒に前日仕事を終え今回のイベントのために関東からタンデム自転車2台を積んだ廣田さんの車、同じく愛知県で深夜に仕事を終



<茨木市での荷物積み込み>

え、早朝に大阪まで伴走車として回送して下さった瀬戸さんの車と3台が行動を共にする予定でしたが、昼食用の弁当が届くのが遅れたため伴走車に届くまで待機してもらい、互いの携帯電話を活用し中国自動車道で最初の休憩ポイントで合流することを約束し、先に本隊のみ出発。

しかし、茨木市の集合地点から高速に入るまでにトイレ希望者（男性3人）が出て臨時停車。高速に入ったもののすぐ渋滞で、運転手さんの機転で再び一般道に降りての走行。

また、参加者の一人が乗ってきたお父さんの車から降りるのをためらったこともあり、そのままいっしょに中国自動車を最初の休憩地点までドライブして下さり、本人の気持ちを落ち着けてからバス乗車に協力して下さるなどハプニングの幕開けの中でのスタートになりました。



今治までに、途中岡山で一人、福山で2人のメンバーが合流し、昼食は予定よりかなり遅れて、「しまなみ海道」多々羅大橋ふもとの景色のよい「道の駅」でボランティアといっしょに無事に届いた（後日談ですが、弁当屋で予定していたアルバイトが急遽来られなくなり、調理が遅れたとのこと）ひれカツ弁当を空腹のお腹におさめました。

<昼食の一コマ> 盲導犬ティファも参加メンバー。

<「しまなみ海道」イベントスタート>

・来島大橋から旅館へ

昼食会場からスタート地点の今治市「サイクリングターミナル糸山」まではバスで20分余りで到着。

自転車に乗るメンバーはレンタバイク・ヘルメットのフィッティングなどがあるため、先に「徒歩・タンデムグループ」を見送り、



<自転車、タンデム、徒歩で「しまなみ海道」を満喫する>

全員が「来島大橋」（3つで全長1650m）を自転車・徒歩・車イス・タンデム自転車で渡り、宿泊地の大島にあるお庭がりっぱで玄関には2万年前のナウマン象の化石が展示されている「瀬戸内荘」に。

旅館では今回のイベントのため玄関、お風呂などをバリアフリーに下さり、また

貸切の要望にも応えるなどして歓迎してくださいました。

・旅館でのひととき

旅館では宿自慢の夕食を食べながら、競輪選手を昨年12月まで30年間続けてこられた浦川勝己さんのDVD鑑賞と話やクイズ。続いてはCVJ代表竹沢荘一さんのスペインサイクリングのDVD。次に参加者自身の「何でもコンクール」では、沖縄の歌、手話による歌（2グ



＜海の幸の夕食＞



＜Steveさんおめでとう＞

ループ)、ハーモニカ演奏、アコーディオン演奏などが披露されました。また、「何でもコンクール」の最後には、翌日が誕生日というオーストラリアからの Steve さんに前に出してもらい、みんなからの寄せ書きとプレゼントを手渡し、全員がアコーディオン伴奏で「Happyバースディ」の歌を唄ってお祝いをするといったことも行われ

れました。
その次は、ゲストの竹細工製作名人赤城正幸さんから手づくりの竹とんぼ・ゴリゴリプロペラを参加者全員がもらい、そのあそび方を教えてもらって童心に返って広い40畳の大広間であそびました。

最後は、やはりゲストとして参加くださった井上一哉さんご夫妻による「チンドン玉すだれ」の妙技をご夫婦の楽しい扮装と話術で参加者一同楽しませていただきました。また、これらのプログラムの進行はプロの司会者大月奈緒美さんのご協力を得て、ほんとうに和やかなひとときを過ごすことができました。



＜チンドン玉すだれ＞

ここまでが子どもたちのプログラムで、この後、大人は夜中の12時までビール・お酒・ジュースなどで再度の自己紹介や歓談でのひとときを楽しみました。

＜第2日目＞5月24日

＜緊急ミーティング＞

2日目は6時半起床、7時朝食の予定でしたが、1日目の行程の中で、自転車走行中に「障害」をもった参加者の一人が行方不明になるという出来事（幸いGPS機能のついた携帯電話を本人が持っており、家族の方と連絡をとり、本人の位置確認ができて事故なく無事に発見することができた）があったため、二度とこうしたことが起きないように緊急のボランティアミーティングを早朝6時15分に召集し、2日目の日程実施にあたっての体制づくりを再点検しました。

というのも、2日目の走行距離は1日目の3倍の30キロ、さらに瀬戸田町では約3時間

ボランティアと参加者が三々五々昼食や観光で過ごす時間があり、自由行動中の町中で、もし行方不明になるような事態が起これば、ある程度まとまって行動している自転車走行中以上に対応がむずかしくなり、早朝5時半過ぎにこのミーティング実施について急遽代表と打ち合わせを行い、6時前にボランティアの部屋を回り開催したものでした。

時間的には短時間だったものの全体会の後「自転車グループ」「徒歩・タンデムグループ」などに分かれ、1日目の反省と2日目実施にあたって



＜2日目朝、旅館の前で出発前の集合写真＞

の真剣な議論と意志統一がボランティアの中でなされました。

そしてボランティア集団の新たな決意のもと7時の朝食に集まって来られた参加者を大広間に迎え、2日目の公式日程が始まりました。

＜ 出 発 ＞

朝食は、当日のアンケートにも書かれていましたが、長距離の自転車走行に備え、多くの方がごはんをおかわりし、その後、各人出発の荷づくりをすませ8時過ぎに集合。

旅館前で「出発式」を行い、この日早朝よりイベントサポートのため福山や尾道からおいでくださった現地ボランティア「M（マウンテン）ポテト」の3人の紹介と全体の集合写真を撮った後、昨日の出発時とは逆に多くの距離を自力で走る「自転車グループ」を「徒歩・タンデムグループ」が拍手で見送る形でスタートしました。



＜「徒歩・タンデムグループ」の拍手の中、次々とスタートする＞

＜ 2 日 目 の 行 程 ＞

2日目の行程は四国今治市の1つ北側の島、大島にある旅館「瀬戸内荘」を出て、最初に「伯方・大島大橋」を渡って製塩で有名な伯方島へ。島内を走り、次に「大三島橋」を渡り大山祇神社で有名な大三島へ。さらに島内を走って「多々羅大橋」を渡り、耕三寺や日本画

家平山郁夫の出身地として有名な生口島へゴールするという「しまなみ海道」に架かる三つの橋を渡る今回のハイライトともいえる行程です。



<登り坂>



<橋を快走中>



<タンデム・徒歩で>

多々羅大橋を自転車で渡る参加者

潮風受け 多島美満喫

全国の自転車愛好者で、京、C.V.J.の企画と関、県今治市・生口が参加。二十三日は、野台中二年大沢一真君、つづいて「サイクルボラン、西地方の障害者らが二十島(約四十、間)の瀬戸、今治市のサイクリング(二日は「自然がいっぱい、また来た」といって潮風が気持ちいい、また来た」といって、また来た)と、うれしそうだった。

障害者ら60人、しまなみ海道サイクリング

C.V.J.の竹浪君(一代)で走り、さわやかな風を、ズネ山から来島海峡大、妻八は「皆さんに、体に受けながら多島美を、橋を渡って大橋に宿泊、とは思わなかった。案外、楽しかった。

自転車の旅で出会いを、二十四日は伯方・大、年も瀬戸内海で企画し、と、昨年七月に行った、島大橋、大三島橋、多、たい」と話した。

経道市中心部から生口島、々々大橋を渡って生口、福山、匠道市のマウ、のサイクリングに続く、島に到着。自転車で乗、マウンバイク(オート)、二人で、視覚障害者、自、れない人も二人乗用(「マウンバイク(オート)、閉居など発達障害者ら二、のタンデムに数声を生、の六人も、先導や伴走、十三人を含め、家族、ボ、けた。二年連続で参加、のボランティアで参加、ランテアら計六、人、した大坂府吹田市立高、した。(青木敏也)

移動の方法は1日目と同様、「自転車グループ」の約35名は、大きくA・B2つのグループに分かれ、さらに細かくAグループは2つ、Bグループは3つに分かれ、それぞれMポテトメンバーとボランティアがついての走行です。

残りの自転車に乗ることがむずかしいメンバー20数名は3人1組の「徒歩グループ」と「車イス・視覚障害のグループ」に分かれ、それぞれの橋のふもとまではバスで移動。

そこから橋に到る道をまず登り、橋を渡った後さらにバスに再乗車するために一般道へ出るまで、徒歩や車イスさらには3台用意されたタンデム自転車の前部や後部座席に乗せてもらい、瀬戸内海に架かる橋からの絶景を楽しむという移動方法で行われました。

Mポテトを先頭で宿を出た「自転車グループ」の最大の難関は旅館を出て、「しまなみ海道」公式ルートに合流後すぐに始まる約2キロの登り坂でした。

サイクリングでは、雨降り・向かい風・砂利道・気温(暑い、寒い)など自然相手に苦戦を強いられることが多々ありますが、坂道も避けて通ることはできません。

しかし、登山同様登り切った後の何とも言えない達成感を求めて、親子で励まし合い、さらにはボランティアからの励ましも得ながら、ほとんどが降りて押すことなく登り坂に挑みました。

<5/25 付朝刊、備後版>山陽新聞提供 また「徒歩グループ」も、伯方・大島大橋のふも

とに移動するバスの車中からこうした「自転車グループ」のがんばりぶりに手を振り、声をかけながら応援をしました。



＜「多々羅大橋」をバックに＞

「多々羅大橋」を渡り、ゴールの生口島・瀬戸田町では、レンタバイクの返却、ボランティアとの昼食、耕三寺参道散策、国内生産の9割を産出する特産のレモンを使ったレモン風呂体験などを楽しむなどして、14時半全員がバスに乗車し、大阪への帰路につきました。

1日目はパンクがあったものの、2日目は順調で、ボランティアの一人が連絡不徹底のミスにより「大三島橋」を渡り終えた所で置き去りにされるというハプニングがあったりしたものの、1日目に昼食をとった道の駅「多々羅しまなみ公園」に全員が無事集合し、長めの休憩と記念撮影、山陽新聞からの取材を受けたりしました。

その後、再びそれぞれ的手段で「多々

＜ 思 い や り と 感 動 に 満 ち あ ふ れ た 2 日 間 ＞

昨年度の尾道から生口島にかけての「しまなみ海道」イベント前半では、7月の真夏の太陽の下、汗をいっぱいかきつつも、全員があふれんばかりの、またこれ以上の満足感はないといったいい表情で「生口島大橋」を渡ってゴールする感動の場面に立ち合うことができ「一人ひとりが主人公になった日!!」と題して報告をまとめましたが、今年もこのイベントの企画に携わり、印象に残ったことは「思いやりと感動のサプライズが満ちあふれたイベントだった」という思いが強くなっています。

以下、今回の忘れられないエピソードのいくつかを紹介します。

・ ありがとう！ボランティアのみなさん！！

まずイベント前の出来事としては、参加者全員にと韓国特産のお土産と海産物をでっかいダンボール箱いっぱい詰めて自宅に送り届けてくださった韓国から参加の金載傑さんのお心遣い。

折からの新型インフルエンザ対策にと買い揃えるのに四苦八苦し **＜韓国からの金さん＞** しているところへ消毒液・マスク 100 個の心温まる寄付を申し出てくださった加藤吉和さん。

この加藤さんは前日まで出張でサイクリング出発地の今治市におられ、直接現地合流予定になっていたにもかかわらず、所用ができたためいったん帰阪し、当日朝、枚方市の出発地点でこれらの品物を届けてくださり、所用後、再び新幹線・高速バスを乗り継ぎ今治市に戻って合流し、「徒歩グループ」のボランティアとして活躍をしてくださいました。



また、ここからはイニシャルのみで思いつくままに書かせていただきますが、イベントにはボランティアとしてMポテトも含めると30名の方が参加してくださいました。



その中には、イベント翌日早朝4時から仕事が入っているにもかかわらず関東から参加して下さったNさん（帰路は尾道から新幹線で帰京）。深夜の仕事を終え愛知県から車をとばして来て下さったSさん。関東からこの日のために2台のタンデム自転車を車に乗せて参加し、

<タンデム参加のOさん>

当日は縦横無尽の活躍をしてくださったHさん、Oさん。CVJメンバーで2年連続の参加にもかかわらず今年も自転車ではなく「徒歩グループ」の担当をしてくださったNさん、Sさん。重いアコーディオンかかえ練習を積んで参加して下さったKさん。プロの司会者として夜の交流会を楽しく進行して下さったOさん。前日に広島で急に入った法事をすませ、その足で参加して下さったTさん。事前に70人分もの竹とんぼとゴリゴリブ



<Kさんとのひととき>

ロペラを手づくりして持参して下さったゲストのAさん。また同じく時代劇の衣装を身にまとい、楽しいかけあいと南京玉すだれを見せて下さったゲストのIさんご夫妻など、ボランティア一人ひとりのエピソードは数え切れないくらいのものであります。

また、ボランティアは交通費など自弁でしたが、地元の大坂からだけではなく、海外はオーストラリア・韓国、国内は関東からの8名をはじめ広島7名、神戸2名、奈良、岡山、愛媛、愛知などイベント成功のために参集して下さった多くの協力があったこそなしたイベントでした。

・ みんなで盛り上げた「何でもコンクール」

また、イベントのなかで得た感動も数多くありました。

1日目夜の「何でもコンクール」では、当日はじめて出会った人たちの前で、手話で歌を披露して下さったOさんとHさん。車イスに座り、とても澄んだ声で沖縄の歌を聞かせて下さったKさん。大きな声を張り上げて手話と歌を教えてくださいましたTさん。



<Oさん、Hさん>

<Kさんの澄んだ歌声>

ハーモニカの美しい音色を聞かせて下さったOさん、アコーディオン演奏のKさんなどその都度、参加者が一体となって会場が大いに盛り上がりしました。

・ 行方不明になったN君の「ことば」

また、第1日目コースからはずれ行方不明になってしまったN君を宿近くの公園でボランティアのNさんが発見した折に、N君の方からまず「ごめんなさい」という第一声があった

ということでした。無事に見つかった喜びはさておき、注意が行き届かなくて、さびしい思いをさせてしまったことに対して、まずこちらから謝るべきところにもかかわらず、N君のこうした様子を知った時には、主催者失格の烙印を押されたような思いで、身の引き締まる大きな責任感を改めて痛感しました。

・ 「自転車グループ」のがんばりぶり



〈坂道を一足ずつ〉

面もありました。

昨年同様、私自身はイベントの2日間、自転車にも乗らず、橋を歩くこともなく、ハプニングがあった時に備え、ずっとバス車中で待機していたのですが、2日目早朝、長い坂道をみんなで励まし合いながら必死で自転車を漕いでいる姿をバス車中から見た時、自分自身の国内外のサイクリング体験がだぶり、また一人ひとりの歯をくいしばる表情に大きな感動を受け、思わず大声で声援しているという場

・ 縁の下の功労者バスドライバーの武村則一さん

昨年と同じバス会社、ドライバーさんを指名し、今年のイベントを行なったのですが、バスドライバー武村さんは本来の仕事である安全運転はもちろん、自転車をはじめとする多くの重い荷物の積み下ろし。バスで待つ盲導犬の水やりのお世話。橋を歩くのをためらいバスに居残った乗り物好きのH君ために着用の制帽を渡し、運転席に座らせるなどして関わりをもってくださいたり、新型インフルエンザの影響が出てはいけないと宿についた後、すべての座席、カーテンなどを消毒して2日目の乗車に備えてくださいたり、車中で失禁した参加者のための車内清掃。全体的な予定遅れの中、臨機応変な対応でイベント進行に協力くださるなどことばに尽くせないほどの助力を得ての2日間でした。



〈竹村さん〉

・ H君の笑顔

2日間バスから降りられず、ずっと車中からの「しまなみ海道」体験のH君でしたが、何とか自分の足で「しまなみ海道」を体験してほしいと思い、お母さんと担当ボランティアのSさんとは途中何度も話し合いをしました。



〈運転席のH君〉

最終の橋である「多々羅大橋」を前に、ドライバーさんに運転席に座らせてもらい気持ちがほぐれたのと、このサービスエリアでは「自転車に乗ろう」でなく「アイスを食べよう」という誘い方でバスを降り、そのまま「バスに帰ろう」と言いつつ、出発時間前に橋の方に向かってどんどん歩いて行くと最初は「何か変だなあ〜」と不安そうな表情を見せていたH君。

でも、きれいな景色やみんなが楽しそうにサイクリングをする様子にだんだんと本来の調子に戻り、ルンルンと自ら歩き出し、橋からの絶景を楽しんだり、参加者の車イスを押すの

を手伝ったりするまでにリラックスしてきました。

こうしてゆったりとした時間を過ごす内に、ついには意気揚々自らの意志でタンデムツ



リングにチャレンジし、バスのそばで参加者の到着を待っていた私の目をタンデムに乗って、後部座席から得意そうに満面の笑みを浮かべながら通り過ぎたH君の姿を見た時は信じられない思いと感動で思わず涙があふれ出てしまいました。

＜タンデムに乗ったH君＞

- ・ 急遽、一人参加になったN君とボランティアのWさん

母子で参加する予定であったN君。

新型インフルエンザの影響で、家庭訪問や学校での待機を余儀なくされ、前日になって急に不参加とならざるを得なくなった教員のお母さん。

どうしようかということになった時、N君担当予定のボランティアのWさんが「自分がマンツーマンで2日間責任をもって関わらせていただく」と力強く名乗りをあげてくださり、それではと本人一人だけの参加を決意されたお母さん。

特別支援学校高等部3年在籍で、80キロを越す巨漢のN君。

去年はバス車中で大好きなカラオケの曲セーラームーンが演奏されず大パニックを起こしたN君（この時は、参加していたボランティアの一人が携帯電話に着メロをダウンロードし、そのメロディをマイクで拾ってカラオケ伴奏として流し、本人が立ち直ったというエピソードもありました）でしたが、Wさんのやさしい働きかけで、2日間全く目立つこともなく、まるで兄弟のごとくいつも二人で楽しく行動している姿をあちこちで見受けました。



＜N君（左）とWさん＞

- ・ 個人的なサプライズ

また、個人的なことで涙が出そうになったサプライズは、帰りのバスが尾道で現地解散のメンバーを降ろすために駐車した折、ボランティア参加のSさんが急にマイクを握り、何事が始まるのかと思っていると、全く知らないところで相談が進み、参加者の方々の総意として、イベント責任者である竹沢荘一さんと企画担当の私に参加者一同から感謝の気持ちとして花束を贈呈したいということでした。



＜花束贈呈のひとコマ＞

この年になるまで人前で花束をもらった経験はなく、それもものすごくりっぱなもので、さらにまさかという突然の場ただけに驚きと感動はものすごいものがありました。

こうした出来事以外にも、参加者とボランティアの間には、もっともっと多くのふれあいがあったことと思いますが、2日間という短い日程の中、感動とエピソードのいっぱい詰ま

ったイベントであったということの一端を少しでもお伝えできたとすれば幸いです。



2年間に及ぶ「しまなみ海道」イベントでしたが、1回の参加者が60名というサイクリングイベントは他にもいくつもあったと思いますが、参加者の3割以上が「障害」をもった方々が対象とな

＜絶景の「しまなみ海道」を自転車で、あるいは徒歩で＞

ったこうしたイベントは過去に例のないまさに日本初の試みだったのでと思っています。

主催者の「サイクルボランティア・ジャパン」の名称にふさわしい2年間にわたるこのイ

ベントを無事達成できたことは、参加された方をはじめとする多くのご協力の賜物であったと言えます。

関わってくださった多くの方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。また今回のイベントの反省をしっかりと行ない、来年も同じ瀬戸内の小豆島を舞台にさらに充実したイベントを実施（おしま まさひろ）



＜また、車イスで、タンデム自転車に乗って＞

実施できればと考えております。ぜひ、その折にも多数のみなさまの参加をお待ちしております。

【Ⅱ】「しまなみ海道」サイクリングの旅

＜公式記録担当＞ 瀬戸 圭祐

2008年7月20日（日）・・・1日目

● 「障害」を乗り越えてスタート

「新型インフルエンザが大阪で感染拡大」という真っ只中、開催中止も検討されたが、主催者の懸命の努力の甲斐あって、マスクや消毒薬の確保のほか、自己判断での参加という形にて、ほとんどの人が予定どおり参加されることとなり「しまなみ海道サイクリングの旅2009」は始まった。



＜荷物の積み込み＞

バスに乗るにも車椅子の積み込みや盲導犬への対応、車イス利用者の方の座席への移動サポート、盲導犬など動物が苦手な車に乗り込めない参加者、スタート地点まで父親と来たもののいつもの雰囲気と違った様子にバスに乗り込

めず、最初の高速道路休憩地点までそのまま自家用車で送ってもらい、やっと気分が落ち着いてバスに乗り込むことができた参加者、また、茨木市を出発後5分もたたない内にトイレ希望者が3名も出て道路脇に臨時停車をするなどイベント実施にあたって多くの配慮の必要性を実感するスタートでした。

● 来島海峡大橋を満喫（第1日目）

しまなみ海道へ向かう途中も渋滞があって高速道路を降りて一般道を走ったり、手配した昼食のお弁当が届かなかつたりと遅れはあったが、サイクリングスタート地点の今治市「サイクリングターミナル糸山」に無事到着。



ここでは夫婦タンドム自転車で10年かけ世界一周をした今回のボランティア宇都宮トモ子さんの出迎えを受け、その後〈昼食は「ヒレかつ弁当」〉レンタサイクルを借り、来島海峡大橋を目指してサイクリングをスタートした。

また、自転車に乗れない方々はボランティアのメンバーといっしょに徒歩で来島海峡大橋にチャレンジだ。

全盲の85歳の女性や、車イスや「発達障害」をもった方々とCVJメンバーなどのボランティアがマンツーマンで高さ78m、長さ4105mの世界初の三連吊橋である来島海峡大橋をゆっくりと歩く。

眼下に世界有数の激しい潮流、ノスタルジックな島々、頭上に伸びて晴天に突き刺さるような白い現代アートの橋梁、それらの見事なコーディネートに圧倒されるような感動を皆で共有しながら全員で橋を渡りきる。



〈今治スタート地点〉



〈「しまなみ海道」を快走する〉



● 皆が一丸となって

スケジュールの大幅な遅れやパンクなどもあり一部行程をカットして宿に到着。

宿も「障害」をもった方を受け入れるために全館をバリアフリー対応とさせていただいていた。しかし、自転車走行中、家族のつきそいなしで参加していた「障害」をもつ方が行方不明になり、ボランティア、バスドライバーや宿の方々もが一丸となって互いに連携をとり懸命に捜索し、GPS機能のある携帯電話を持つ本人の位置確認を家族の協力を得ながら、無事保護されるといったこともありました。

その後、宿では、映像による2つの自転車体験発表、参加者の出し物、2組のゲストと過ごすひとときなど、宴は最高に盛り上がり、皆の一体感が大きく膨らんでいった。

● サイクリングの醍醐味を実感

(第2日目)

翌日は半日で30kmを走る行程だが、「障害」をもった方々のほとんどにとっては未体験の距離だ。

朝からしまなみ海道サイクリングコース最大の2kmの登りとなる。決してラクに登れる坂道ではないが、ほとんどの人たちが降りて押すこともなく、互いに激励し合いながら登り切ることができた。

サイクリングの醍醐味ともいえるすばらしい感動をこうして皆で分かち合えることができた。

大島を横断して伯方・大島大橋を渡り伯方島へ、さらに大三島橋を越えて大三島を走り、世界最長の斜張橋である多々羅大橋に挑む長丁場のサイクリングだったが、全員リタイヤすることなく楽しく走ることができた。



<瀬戸さん(右)>



<「しまなみ海道」スナップあれこれ>



● タンデム車で自転車初体験

一方、「徒歩・タンデムグループ」は、島内はバスで移動し、全ての橋は歩いて渡り、生口島を目指した。

今回は埼玉のタンデム自転車交流協会の方々(CVJのメンバーでもある)が埼玉などからタンデム自転車を2台持ってきてくださったのをはじめ3台のタンデムを用意し、自転車に乗れない「障害」をもった方々と共にサイクリングを楽しみ、自ら風を切って進む気持ちよさを体感した。

また、このタンデムには、30年間プロの競輪選手であり昨年末引退されたばかりの浦川勝己さんにパイロットとして、多くの方に自転車に乗ってもらうため一つの橋を何度も往復するなどプロの脚力を大いに発揮していただいた。

こうしたイベントの中で「自閉」傾向があり、バスから降りることができなかったひとりの参加者が最終の橋を前にバスを降り、最後には自らタンデム車に乗るといったとても感動的な場面も生まれたりもした。



● 感動のゴール

自転車で、徒歩で、そしてタンデム車で、島々を繋ぐ巨大な橋を越え、素晴らしい風景に勇気づけられ、数々の発見や喜びに出会い、しまなみ海道を満喫してゴールの瀬戸田の街にやってきた。

<タンデムに乗って>

昨年度は尾道からこの生口島まで走り、本年は四国の今治からここまでの走破で、2年がかりでのしまなみ海道80kmの完走となった。

普段は「健常」者に比べると何かと不自由な生活が強いられる「障害」をもった方々が笑顔満面で喜びの表情をそこかしこで見せるなか、いっしょに2日間を過ごせたことは他のものにはかえがたい、体験をした者にしかわからないボランティアの感動を覚えることができた。



<車イスで渡橋>

全ての参加者が忘れることのできない感激と感動にあふれた、そんな貴重な経験ができたとても幸せな2日間であった。

(せと けいすけ)

【Ⅲ】 主催者より

「お礼」

サイクルボランティア・ジャパン (CVJ) 代表 竹沢 荘一 今日まで、多忙に紛れて延引しておりましたが、明早朝から、第61回目の海外自転車ツーリングとして、スペインへ出発するのを前に、大島政広先生ご編集・発行の「スピーカーズコーナー」の読者の方々をはじめ、「しまなみ海道」イベントにご参加くださった方々、また物心両面でお支えくださった方々に厚く御礼申し上げます。



昨年の第一回目は、何事もなければよいがと心配しておりましたが竹沢代表とCVJ旗>が無事終了し、本年はまた予想以上の多数の方のご参加をいただいて、楽しく終えることができたことをほんとうに喜んでおります。

普段あまり自転車で遠出される機会のない方々に、われわれのイベントを通して、少しで

も多く自転車の楽しみを味わっていただけたなら、主催者としてこのうえの喜びはありません。

来年も、また再来年も、何らかのイベントを通じて、またみなさまにお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、ボランティアとして、終始いろいろご協力とお世話賜りましたみなさま方に、この紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

(2009年10月1日)

(たけざわ そういち)

【IV】 参加者の感想 一順不同一

① 「しまなみ海道」サイクリング

杉本健次郎（代筆 杉本貞子）



木々の緑も一段と色濃くなってまいりました。皆様お変わりなくお過ごしのことと思います。

先日は楽しいイベント旅行に参加させていただき、また、息子の参加にあたってボランティアをつけていただき、たいへんお世話になりました。

本人もとても喜んでおり、お迎えに行った時みたいへん生き生きとした表情で充実した時間を過ごしたんだろうなということが伝わ<昼食中の杉本君> ってきてたいへんうれしく思いました。

報告書ということですが、本人が作文を書く力がなくたいへん残念ですが、母親の私が本人の様子をお伝えしたいと思います。

“自転車”とはっきりしたことばでニコニコしゃべっており、自転車を見たこと、乗ったことが強烈な印象を与えたようです。

それからカラオケ、合唱で歌ったのでしょうか“翼をください”を大声で熱唱していて、その力強い歌声にびっくりしてしまいました。

それからまた、たいへんうれしいことがありました。

ボランティアの中島東平さんから、ていねいなお礼、ごあいさつのお葉書をいただいたことです。

私の方からお礼状を差し上げるべきところを……。非常に謙虚な内容のお葉書でさわやかな風に吹かれたような気がしました。

ボランティアで重度の知的「障害」児のお世話をしていただける方がいるということが私の心の励みになったような気がしました。

中島さんには、とても感謝しています。

住所がわからないので、お返事のしようがなくして申し訳ありません。

中島さんにはくれぐれもよろしくお伝えくださいませ。ありがとうございました。

初めて学校行事、家族旅行以外で宿泊旅行に出して、ああ健ちゃんにも新しい体験を仲間といっしょにさせてあげられたらという感激でいっぱいです。

たいへんあつかましいお願いですが、来年も元気いっぱいこのイベント旅行へ参加できたらと願っています。

大島先生、ボランティアの皆様方、また他の参加者の皆様方ほんとうにたいへんお世話になりました。

(すぎもとけんじろう 母；さだこ)

②「しまなみ海道」の旅に参加して

浅田 恵子



＜浅田さん親子＞

25歳の息子が通園しております「清水園」より、この旅を紹介され、すぐに参加を決めました。

自転車や、歩いて橋を渡るなんてわくわくします。でも個人では、なかなかむずかしですね。

息子は自転車が大好きなので、今回は親子とも自転車にしました。誰も知らないグループ旅行はとても不安でしたが、大島様より何回もメールをいただいたお陰で、安心して出発できました。

ラポール前で、初めて皆様にお会いしました。年齢も「障害」もいろいろ。盲導犬がいたのには驚かされましたが、一緒に旅をするのかと思うとうれしくなりました。

サンライズ糸山に到着。ヘルメットを着けてさあ出発。なんと！来島大橋の途中で私の自転車がパンク（体重オーバー??）。代わりの自転車がくるまで、皆さんが辛抱強く待ってくださりありがとうございました。

夕食後のお楽しみ会は、楽しかったですね。次々と出てくるプログラムに笑ったり、拍手したりで、時間のたつのが、早いこと。息子は「ちんどんや」が特に気に入ったようです。

2日目も天気がよく、キラキラ光る青い海を眺めながら、風を切って走り、今ここにいられることに感謝し、もっとたくさんの人に体験してほしいと思いました。

今でも、たわわに実っていたレモンの黄色が目に残っています。たくさんボランティアさんのおかげで、無事ゴールイン！表彰状をいただき、息子も誇らしげでした。

大島様、素晴らしい体験をさせていただき、ありがとうございました。

ボランティアさんの笑顔と、献身的な姿、そして忘れてならないのは、バスの運転手さんの手助け。皆さん、皆さん本当にありがとうございました。又お会い出来る日を楽しみにしております。

(あさだ さとこ)

③ 「気持ちよかった～！」

大塚正平（代筆 大塚恵美）

おはようございます。

「山陽新聞」記事拝見しました。



いいお天気、素晴らしい景色の中のびのびと（のんびり？）と走っているみんなの姿が映ってましたね。



<大塚君>

正平は真っ先に走って早々に終点まで行ったようなことを報告してくれました。

「気持ちよかった～！」これが彼の感想です。

ありがとうございました。

（おおつか しょうへい 母；えみ）

④ 「思いっきりたのしかった…」

濱田 浩子



このたびは本当にお世話になりました。

昨年ボランティアで参加された栗山さんから「しまなみ」を自転車で走ったお話を聞いて、「走ってみたい。次の時は誘って…」とお願いしていました。

どこか旅行社のイベントと思っていたので「障害」者（児）が対象だったと資料をみてビックリしました。

「健常」者が参加するのはモグリではないかなと心配で、私は膝が悪いので準「障害」者扱いにしてもらえないかと膝の悪さを強調？

<濱田さん> 自転車を運んでいただくなど無理をお願いしていいのかな？などと、後ろめたい思いもありましたが、海の上を走ってみたいという気持ちが強く、厚かましく参加させていただきました。

やはり歳ですネ、時には必死でこがないと遅れてしまいそうで電動自転車を運んでいただいて助かりました。

期待どおり海の上を走る爽快感は最高でした。思い切り楽しかったです。

快く引き受けていただき本当にありがとうございました。

同じ部屋になった若い岡田ちゃん・船阪さんが親しくしていただいたこともうれしかったです。ありがとうございます岡田先輩・船阪さん来年もごいっしょしましょうネ。



（はまだ ひろこ）

⑤ 「しまなみ海道」サイクリング REPORT



<船阪さん>

高1 船阪 咲倭

大島先生より「しまなみ海道」の話しを聞いて「ワァーすごい！」
“自転車で、しまなみ海道に行くの！”

すべての話しが興味でいっぱい。

ぜったい行く！と思い、今年はじめて参加しました。

すべてが新鮮で、参加しておられる人はフレンドリーで、気さくな人ばかりでした。

何かをいっしょにするということは、団結力が増し、サイクリングをすることは一人ひとりの自立心が養われ、とてもいい経験になり、2日間という限られた時間のなかで得たものは大きく、その経験を今後活かしたいと思っております。

自分の体で自然を知り、体を動かしながらのサイクリング、ゴールした時の達成感など自分を成長させるよい経験でした。

このイベントで得た貴重な体験は、これから先の大切な思い出になると思います。

楽しい時間を過ごすことができ、とてもよかったです。

(ふなさか さや)

〔V〕 ボランティアの感想 一順不同一

① 「風薫るしまなみ海道へ」

ボランティア

栗山 勝吉

5月23日(土)～24日(日)昨夏に続いて2度目の後半レースに参加しました。

今年は自宅近くの顔見知りの方の参加も多くあり、うれしく思いました。

満席となったバスは例のインフルエンザのお陰で、全員マスク姿で一路山陽道を西へ。

尾道から1年ぶりの「しまなみ海道」に入りました。

瀬戸内の海から観る島々の景色は、やっぱり最高。多々羅大橋近くの“道の駅”の海辺で、遅い昼食をとった。

目の前に海面から、そのままの勢いで標高150メートルはあろうか？島々にそそり立つ緑の山々。この島々の間を縫って、古くは渡来人や遣唐使、源平合戦の船や村上水軍が活躍したのか…と想いを馳せる。

今治市のサイクリングターミナルに4時頃バスは着きました。

各自、自転車の選定があつてから、ヘルメット姿も凛々しく、その日の内に来島(くる



<栗山さん>

しま) 大橋を渡って、大島の旅館「瀬戸内荘」に着きました。

夕食の後は、竹トンボあそびや井上さんご夫妻のチンドン玉すだれなど楽しいあそびがいっぱい。

私が持参した下手なアコーディオンで、オーストラリアからのボランティア・ステーブさんの誕生日を祝って「ハッピーバースディ」の演奏をしたり、交流のひとつときを過ごしました。

翌 24 日は 8 時に旅館前に集合。

朝の潮風を胸いっぱい吸って、一路伯方（はかた）島へ向かって出発しました。

伯方大橋にさしかかる約 2 ㎞の登り、走りはじめてすぐで、体がまだその気になってないのか？ けっこうきつくて、周囲の景色を楽しむ余裕はありませんでした。

伯方島に上陸するとミカンの木が多くなり、潮香に混じってミカンのよい香りがしました。周りを見回すとファミリーや一人で参加しているメンバーもそれぞれ今日も元気で快走中。



電動バイクで参加された濱田さんは、私たちがフーフー言いながらペダルを踏んでいるのにもかかわらず涼しい顔で後になり、先になりしてみんなを見守ってくださっている。

大三島で徒歩グループも全員集合して記念撮影などをすませて、最後の橋、多々羅大橋を渡った。

橋のはるか眼下を赤塗りのタンカーなどが往き来する。

正午過ぎバスの待つ生口（いくち）島の自転車終着地に着いて、今年の終着地とめでたくドッキングできました。

自分の脚で、本州と四国を結んだのです。

昼食の後、バスに乗りこんで帰路につきましたが、尾道駅で新幹線に乗る人など数人を見送ったときはドシャ降りにわか雨で、サイクリングの途中でなくてよかったなあと胸をなでおろしました。

バスの中ではクイズなどを楽しんだ後、昨晚手話で歌った「翼をください」などの曲を弾いて、再び歌ってもらいました。



<津田さん>

19 時過ぎ、無事最終解散地点の枚方市に着きました。

みなさん貴重な体験をありがとうございました。

(くりやま かつきち) 枚方市在住

② 「初めてのボランティア」

ボランティア 津田 育司

ボランティア自体がはじめてで、事前のお知らせは読んではいったものの、どんな場で何をするのか、わからないまま参加させていだいた状態でした。

現地に着き時間が経つにつれ、参加される障がい者の方やその親御さんたちにとって、非常に大きな体験の場であると段々実感してきました。

また、あまり軽い気分ではいけない場であると思えてきました。私なりに頭をきりかえ、私なりの参加をさせていただいたつもりです。

そしてあの場の一員として参加できて、ほんとうによかったと今思っています。

大島さん、CVJのみなさんご苦労様です。

参加された障がいをもつみなさんや、そのご家族のみなさんに私も力をいただきました。

これからも、橋を渡ったときの笑顔で、力強く明るくがんばってほしいと思います。そしてまた何かの場でお会いしたいです。ありがとうございました。

PS. 今思い出すシーン… 「しまなみ」の橋の上で、私のおす車イスの片方を、ある男の子が握ってくれました。私が「押すの手伝ってくれるのか？」と聞くと、その子はニコニコし、うなづいていました。するとその子の母が「こんな場面見たら、お父さん泣くわ」と感動し、一生懸命前方に走



＜津田さんと手話コーラス＞

って、こちらの写真を撮っておられました。親の心情にぐっときました。おじいさまに車椅子を10メートルほど押していただいたのも、忘れられません。

(つだ いくじ) 枚方市在住

③ 「しまなみ海道」サイクリングに参加して

= 多くの出会いをありがとう =

ボランティア 村口 ミヨ子



＜村口さん＞

今回、縁あって初参加の私ですが、まずはじめにこの企画を立案、参加者への呼びかけ、その他数々の綿密なスケジュールで現場の指揮にあたってくださった大島さんをはじめとする主力のスタッフの方々に敬意を評します。

1番うれしかった点としては、私と同行しておられた視覚障がい者の中馬田鶴子さんが「この年齢（84歳）でみなさんの力を借りて自転車（タンデム）を漕ぐことが出来た！」と満面の笑顔でよろこんでおられたことです。

周りの景色は見えなくても瀬戸内海の薫風を受け、自転車のペダルを漕ぐ時の音、感触を肌で直接感じられ感動されたことと思います。

今までハンディを持ちながらも、いろんなことに挑戦してこられた中馬さんですが、まだまだやればできるんだという前向きの姿勢に私の方が励まされた気持ちになり、「やったネ」と思わず拍手で喜びあいました。

最初にボランティアの方は自分自身の楽しみはちょっと横において——と言われていたのにすっかり私自身がいっしょになって楽しんでいました。

そして各地からの老若男女のさまざまな障がいを持った方々、ボランティアの人たちとの集まりの中で、すでに顔見知りであったり、またそこで知り合ったりと新しい出会いがあったということ。人とのつながりが希薄になりつつある今頃ですが、ひとつのことに取り組むことで仲よくなれるんだということを実感することができました。

今は心地よい疲れと満足感いっぱいではんとうによき思い出となりました。

改めてみなさまに感謝し、お礼申し上げます。

ありがとうございました。

(むらぐち みよこ) 枚方市在住

④「笑顔はたからもの」

CVJ 会員 佐々木 海希

今年も「しまなみ海道サイクリングの旅」に参加させていただき、私は自閉症の K 君とお母さんと一緒に、2 日間を過ごさせていただきました。



<佐々木さん>

これまで「障害」のある方とのイベントに何回か参加して気づいたのですが、近頃の個人情報の厳しさからか、一緒に行動させていただく方の詳細な情報については、ごくごく限られた時間で限られた人にしか知らされないことが多いようです。私も当日の朝、お母さんが一生懸命書いてきてくださった、K 君と接するときの注意事項が書かれた紙を渡していただきましたが、そうしたアドバイスがいただけるのはとてもありがたいことでした。



とはいえ、「障害」をもった方と行動を共にする経験の浅い私には、当然その紙に書かれたすべてについてその通りにするというのは非常に難しいことでした。ですが、今回のようなレクリエーションの場では、何よりも彼が楽しめるよう、彼自身のペースを大切にできたらいいなということを考えていました。

今私は、土曜日のみ保育のお手伝いをしていますが、たくさん子どもたちがいる中では一人ひとりのペースを大切にすることが時として難しいことがあります。

また、いわゆる企業社会の中での忙しいペースや計算高さは私には合わないのかもしれないあということ、この頃よく感じます。そんな私にとって、自分なりのこだわりのある独自の世界をもって、何かをするときに人より少し時間がかかってしまう、そんな K 君と過ごしたゆっくりとした時間は私をととても幸せにしてくれるものでした。

今回、バスから離れられず、自転車に乗ることも歩いて橋を渡ることもなかなかできなかったK君。そんなとき、浅はかな知識で小細工をしてしまったり、十年寄り添ってきたお母さんに意見してしまったりしたことで、必要以上に彼に負担をかけてしまい、反省したり後悔したり、そんな出来事もありました。でもそんなことも私なりに彼のことを考えてのことだったので、今の私自身の日常の暮らしのなかで、それほど真剣になれることがどれくらいあるのだろうか、そんなことも考えていました。



そんなあれこれの迷いや自己嫌悪でさえも、最後に彼が見せてくれた笑顔によってすべてが吹き飛んでしまいました。数回のチャンスのなかで一番最後によろやく自転車に乗ることができたK君。「手、しっかりね」の声かけに両の手をぎゅっと握ってタンDEM自転車の後ろにまたがりながら、満面の笑みを浮かべて胸を叩いていました。そのしぐさが表わす彼の気持ちが何であったのか、私には正確にはわかりませんが、あのときの笑顔はずっと忘れることができません。たとえ一瞬でもたった一人でも、誰かを笑顔にすることができる、そんな場にいられたということは本当にとても幸せでした。そしてそんな場を与えてくださったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、おそらくK君は最後の最後まで完全に彼自身の意思で納得して橋を渡ったわけでも自転車に乗ったわけでもなかったのかもしれないと思います。私やお母さんのしつこい説得に、「しょうがないなあ」とやむなく折れた、そんな感じもあったかもしれません。また今回のこの経験が、今後彼にとって、長い目で見てどんな影響を与えるのかは未知でもありません。

ただ、周りでたくさんの人たちが彼を思いやっていた温かさは本物だったなと思いますし、そのことだけは彼に伝わっていたなら、その空気を感じて覚えてくれていたならいいなと思います。また来年も、K君の、そして参加された皆さんのたくさんの笑顔に再会できたら嬉しいなと思います。

(ささき みき) 東京都在住

⑤ 「しまなみ海道に参加して」

CVJ 会員 中島 東平

去年に引き続き参加をさせていただいたサイクルボランティアジャパンの中島東平です。

今年もイベント中で多くのことを学び、大変意義のある時を過ごさせていただきました。以下の3点が主な僕の感想です。



<中島さん>

①楽しかったこと。

これは参加者の皆さんと共有した時間そのものです。個々の利益に拘らず、同じ目的の元で皆が協力し合った今回のようなイベントは何とも言えず清々しい時間でした。

わざわざ遠くからボランティアに来て下さった方、自分の持てる芸を惜しまずに披露して下さい下さった方、去年に引き続き協力をして下さったマウンテンポテトの皆様、お仕事以外まで手伝って下さったバスのドライバーさん、細部まで機転を利かせて下さった旅館の皆様、その他挙げ切れないほど多くの方々の善意をイベント中で感じました。質の高いイベントが行われたのは皆様それぞれの高いボランティア意識があったからだと思います。そんな中で一緒に活動できたこと、抽象的ではありますがこれが僕には一番のご褒美でした。

②学んだこと。

今年もイベントを通して多くのことを学ばせていただきました。特に僕が担当をさせていただいた森君と杉本君の二人からはとても重要なことを教えてもらいました。

それは彼ら「障害」を持った方が、我々「健常」者が日常の中で失くしてしまいがちな素直な感情表現とコミュニケーションが出来るということです。

楽しい時には笑って声を出す、嫌なことは明確な意思表示をする、仲のいい友人には抱きつくことで喜びをアピールする、これらは感情を持つ人間ならば重要なことではないでしょうか？

今の世の中を見てみると、ビジネス社会で多大なストレスを我慢し続けることが美德とされる風潮、競争社会で勝ち上がるために常に駆け引きすることが身につけてしまっている人々、そして携帯電話とメールが溢れたために他人と直接コミュニケーションをとることが下手になっている若者達が数多くいます。



森君や杉本君を見ていると彼ら「障害」を持っている方の方がずっと人間味に溢れていることに気付かされました。

僕自身、コミュニケーションが上手い人間ではないのですが、彼らと一緒にいると何だか自分に素直になれた気がします。こうした意義のある体験はより多くの「健常」者にしてもらいたいと今は思います。



そしてもう一点。

それは今回参加された「障害」者の皆さんが何方もとてもいい表情をされていることに気が付きました。皆さんの屈託の無い笑顔と他人を思いやる優しさ。どこからそれらが来るのだろうか？と考えてみたら、それが普段周りの人々の温かい思いやりがあるからなのだと思います。

というのも、海外のある国では「障害」者を社会の陰の部分とみて、家族が外に出さず閉じ込めておくという話を聞いたことがあります。そんな国では「障害」者の方は肩身が狭く、とても生き活きとした生活を出来る筈がありません。

実際僕もその国を旅したのですが、やはり街中で「障害」者の方に会うことはほとんどありませんでした。

そして唯一マクドナルドの店内で目にした時、周りの現地の人の目はとても冷たかったです。

僕と同席していた現地の友人ですら「障害」者を目にしながらか「なぜ、社会にああいう人が存在するのだろうか？」と言う始末。

僕は当然憤りを感じましたが、考えてみれば社会の中にノーマライゼーションという考え方がないので友人一人を責めても仕方がないですね。

その点、今回の参加者の方々の生き活きとされている様子を見ると個人的には日本の現状を誇らしく思いました。もちろん当事者やご家族、そして各種の支援活動をされている団体の方々からすればまだまだの部分もあるかもしれませんが、日本の「障害」者への理解はそう悪くないと思います。

③反省していること。

今回、残念ながら反省しなければならないこともあります。それは一日目のサイクリング中、参加者の一人（「障害」をお持ちの方）が行方不明になってしまったことです。



どうやらグループの中間にいたようなのですが、前とも後ろとも離れた状態で迷い込んでしまったようでした。

旅館の方も自動車・オートバイで協力を申し出て下さり、すぐに捜索を開始。約30分後、幸いにも旅館から程遠くない公園の中で発見することが出来ました。薄暗い公園で一人でさぞ辛かったと思います。

実は、この時発見したのは自分だったのですが、彼が最初に言った言葉は「ごめんなさい…」でした。

そのあまりにも謙虚な言葉にもう自分は涙が出てしまった程です。

そしてすぐに大島先生と彼のご家族の方に連絡を入れました。

その時のご家族の安堵する様子は痛いほど…、本当に痛いほど伝わってきました。

自分はサイクリンググループの担当ではありませんでしたが、行方不明になった時の状況を考えると我々CVJボランティアに落ち度があったのだと思います。

この点同じメンバーとして責任を感じ、本当に申し訳なく思っています。

現在、CVJでは他にもサイクリングイベントを行っていますが、今回の事態を踏まえ、今後こうしたことが無いようイベント中の参加者の把握に努めたいと思います。

最後にひとこと。今年も「しまなみ海道サイクリング」に参加された皆さん、心より感謝しています。

そしてほぼ全ての企画をお一人で準備して下さった大島先生、ほんとうにお疲れ様でした。



(なかじま とうへい) 千葉県在住

⑥【アンケート】と雑感

CVJ 会員 鵜飼 友義

①<1日目の昼食について>ひれかつ弁当

⇒おいしかったですよ！2つも頂くことになっちゃいました。
ひれかつとは豪勢なチョイス！と思いました。東平君とわけわけしていただきました。

お昼場所もよかったと思います。翌日の途中休憩のときに、
「あーここ、ここ」とみんなで思い出せたので、安心感がありました。



<鵜飼さん>

②「瀬戸内荘」について

<1日目夕食について>

⇒お刺身までついて、さすが民宿の夕食！という感じです。品数も多かったので満足です。

たくさ〜んのお皿をみんなで配膳したのも楽しかったですね。

「あっちのテーブル多い〜、こっち一人分足りな〜い」とか。

<2日目朝食について>

⇒今日は走るぞー、という気合でご飯3杯くらい食べちゃいました。

時間はタイトだったので、かっこむ感じでしたが。

食事前の大島さんの周知事項には、B班の先導役として気が引き締められました。ういっす！

<部屋・お風呂などの宿泊設備、全体的な感想>

⇒バス1台分の人数をちょうど収容できる、ジャストサイズの宿だったと思います。貸切状態なのが、いろんな面で助かりますね。

外のお風呂は良かったですねー。

車いすの方たちにも利用しやすかったんじゃないでしょうかね、おそらく。

③「バス」について

<行きの車中での行動について>自己紹介・諸連絡・休憩など

⇒今年は、わたくしが「ムーンライト伝説」を用意させていただきました。聞けば、昨年もどなたかが携帯でダウンロードされたとか。毎回の定番なのでしょうから、来年はテープに録音して用意しておいたほうが良いですね。ふふふ。

<帰りの車中での行動について>レクレーション・主催者プレゼント・反省会など

⇒大島さんの半ば強引な主催者プレゼントは、考えてみれば合理的ですね。みんな、当選のたびに喜んでるので、イベントとして盛り上がりました。なにせ、大島さんの問題作りと、クイズ進行が上手なんですもの。私も乗せられて、2Lのお茶を「ゲット」しましたが、うわっ！ペットボトルどうやって東京まで持って帰ろうと思いました。でも何とかなっちゃいますね。あと、新幹線の時間を気にしていただき、ありがとうございます

した。間に合うには間に合いましたが、最後の片づけまでお手伝いできなかったのが、逆に心残りです。

<バス全般について>設備・冷房・運転・座席など

⇒とにかく「運転手さん」は間違いないですね。

これ以上は無い良い方だったと思います。前回に引き続きというエピソードを聞いて、これも「出会い」なんだなーとつくづく思いました。

荷台がパズルみたいになってましたが、いやギリギリでしたねー。<武村ドライバー> 私は、自転車を持ち込んでしまいました。持ち込む台数などスペース的な制限を予測しておかないといけないなーと思いました。いずれにしましても来年も同じ運転手さんで決まりですね。というかも CVJ メンバーの一員ですね。



④イベント行事について <「全体交流会」について>

・「キャンプ参加記念品」製作について

⇒これは、竹細工のことですね。

今回の限られた時間の中では、予め作っていただけたのが助かりました。自分たちで製作するというのも本来体験させてあげたいところだったのではないかと思います。あの時間の中では、配るだけで良かったと思います。

たいへんいい思い出のお土産になりました。

・「何でもコンクール」について

⇒歌や手話など、みんなの得意が活かされていて楽しめました。

手話など帰りのバスで、思い出してもう一回やっても良かったかも。

・「ミニ体験発表」

①竹沢荘一さんお話と映像について

⇒映像は見れて良かったのですが、他のイベントとの時間バランスがとり切れなかったかなーと思います。

②浦川勝己さんの話と映像について

⇒いや、ホント聞きたかったのですよ、浦川さんのお話。

その時、外を見に出ていたので残念ながら全くお話をお聞きできませんでした。

いやー、残念。また次の機会に！あるいは茨木の串カツ屋さんに参ります。

・「ちんどん玉すだれ」について

⇒これぞ余興！

いいですねー。ハジケテました。すごい持ちネタです。しかも夫婦で。

翌日普通の夫婦なのが、笑えますよね。昼の顔と宴席での顔。



<井上夫妻のチンドン玉すだれ>

タレントの持ち主が集まる、求心力のあるイベントだと思いました。

しかし、みんなウケてましたねー。

⇒ (その他)

マウンテンポテトの方たちって、夜はいらっしゃらなかったんですっけ？

夜の飲み会に参加してもらいたかったー。あるいは、ミニ活動してもらっても良かったのではと思います。(あれ？私が外に出てしまったので判らず申し上げましたが、もしかしてそれはやりましたっけ？)

⑤<「しまなみ海道」サイクリング、タンデム・徒歩グループのイベントについて>

サイクリンググループに参加(○)、タンデム・徒歩グループに参加()

(サポート体制、企画についてなど)

⇒私自身は、B班リーダーとしてサポートする側だったのですが、Mポテトの方にはたいへん助かりました。

子どもや年配の親御さんが入り混じってのランなので、どうしても早い方遅い方が生じて、前後になが〜い(ときに分断された) 隊列になってしまってたのです。

一人の迷子も出してはいけないので、先頭はMポテトの方、後ろは大畑さんに決めてもらい、前へ後ろへと常に人数カウントしながら走ってました。

おそらくこのメンバー構成だと次回も同様に長〜い隊列班になると思われますので、「前・後ろ・中を遊撃的に」の3名サポート体制は必要になると思います。

これは、ゲストを呼んでの隊列ランにおいても有効な良い経験でした。

CVJの別のイベントでも活かそうです。

でも、すごいですよねー。30km近くママチャリ走行するのですから。

東京に帰ってきてママチャリに乗ったのですが、ちょっと走るだけで重ーいと思ってしまいました。B班のみなさんよくぞ走りきっていただきました！と感謝いたします。これ

れも「しまなみ」の景観がなせるものなのでしょうね。

途中の小さな休憩スポットで開催されていた昨年参加してくださった宇都宮一成さん(今年は奥様が参加してくださった)の「夫婦タンデム世界一周」何か紹介イベントみたいなのがあって自転車展示してありましたね。

あれ、ちょっと聞きたかったかも。

⑥<「しまなみ海道」イベント全体について> (準備・企画・参加費・サポートカー・役割分担・来年度実施に向けての要望、また候補地など)

⇒計画の日程スケジュールがとてもタイトだったのは、せつかく年に1度の「しまなみ」なんで、あれもこれも取り込みたいって気持ちになってしまいますよねー。

その気持ちよーく解ります。そう考えると、まずはいろいろ計画に入れておいて、時間



がおしたら、さし障りのないメニューから外していくという手法になるのは仕方ないでしょうねー。

とはいえ1日目の交通事情は、遅延を想定したスケジュールが必要だったのではないかと思います。

糸山での走り出しまでの準備があわただしく、A班は準備運動もなかったかなーと。

できれば、サイクルボランティアとしては、自転車の調整(サイズ合わせ)や乗り方(ギアの扱い)とか、団体を動くことの注意点(はぐれないようにとか先頭の誰を目印にととか、右折左折の合図とか)など自転車にまつわるレクチャーをしたかったですね。

これは東京でのランでも言えるのですが、集まってさほどレクチャーもなく、さあ行きましょーで、走りながら覚えるという超OJT的な受け入れ態勢だと思います。それでも走ってるうちにチーム感や合図とか覚えたりできるのが自転車の良いところなんでしょうね。

それと、役割分担の中でも、子どもの担当制についてはもっと決めておけば良かったと思います。誰担当という状態と、班・部屋単位で担当という状態とが入れ替わる場面でもどうしても「誰々が見ているはず」という「つもり」「抜け落ち」が生じたり「そっちまでは見れないぞー」という見渡しきれない状況が生まれました。スポーツでいうと「マンツーマンディフェンス」と「ゾーンディフェンス」の切り替えみたいな場面。

少人数で目を行き届かせますから、どちらも場面に応じて活用しないといけないと思うので、切り替え時に抜けおかないよう、事前にもっと綿密な役割分担の取り決めや申し合わせがより必要だと思いました。

それでも2日目は、班の中に団体意識と役割の明確化が芽生えてきましたし、不足の事態では、大島さんにしょっちゅう連絡入れて共有させていただいたのでかなり見渡せていたと思います。

かっちかちに取り決めしていても、窮屈なイベントになってしまいますので、「こういう場面ではこう」とか常套手段として身につけておきたいと思いました。



CVJメンバー(あるいはサイクルボランティア)としては、来年も、瀬戸内の島めぐりや、海がきれい、景観がすばらしいといったところに自転車で巡っていききたいですね。個人的には佐田岬に行ってみたいんです。遠いすかね。

淡路島という案もあるようなので、「しまなみ」「淡路島」の瀬戸内シリーズで繰り返すというのが良いかもしれません。今度は、大島さんたちばかりにお手間が集中しないようもっと事前から準備に関われたらと思いました。

⑦その他、お気づきになられたこと

<今回の企画を採点するとしたら> 88点

<来年もこうした計画をしたいと思ってますが、来年も

①ぜひ参加したい(○) ②参加を検討してもよい() ③不参加() >

【感想】

しまなみ海道パート2、完走お疲れさまでした！

特にわたくしと一緒に走った『B班のみなさーん！』楽しかったですねー。景色も良かったし、サイコーでしたね。

坂道とかきつくなかったですか？私、あの後東京帰ってからママチャリに乗ったんですけど、坂とかきついですよーママチャリだと。あちゃーこれでみんな、あの坂登って、何本も橋渡って3～40Km走ったんだー、こらたいへんだわーと思いました。

あと、走り始めてすぐパンクしちゃったり、ちょっとはぐれちゃったり、何人かコケちゃったり、いろいろありましたねー。走ってる最中も走り終えても、B班のみなさんの顔がと〜っても楽しそうだったのが今でも思い出されます。

あれ、自転車って、ちょっと長い距離なのがいいんですよね。

あと、多々羅インフォメーションセンターで飲んだイヨカンのジュースがとてもおいしかったです。

わたしの中では、「あの休憩所」＝「イヨカン」＋「ひれかつ弁当」＋「自転車持ち上げて重かったぜ集合写真」という記憶で刷り込まれました！

最後まで楽しく過ごせたのも、みなさんのおかげです、また来年お会いしましょう！楽しみにしております。

それ以外でも大阪に参ることがございましたら、茨木によりますね。

また、よろしく願いします。



【感想（運営サイド向け）】

全体向けの感想ではないので、別枠に記します。

わたくしも、高校から社会人2年目くらいまで地元のボランティアサークルにて「精神薄弱」の方々と集まってサークル活動を毎週やっておりました。

その時も毎週企画を練ったり、イベント開催や旅行に行ったりしたこともあって、久しぶりにその時の感覚を呼び起こせました。ちょっと懐かしく思っていました。



その時もそうだったのですが、こういった集まりや旅行で一番の意義は「親御さんが一時でも、気を休めて和まれたり楽しんでいらっしやること」なんではないかなーと思います。私も、その輪の中にいれさせていただき、たいへん楽しく過ごさせていただきました。

しまなみイベントに参加の機会をいただき、みなさんに出会え、楽しい時間を共有させていただいたことが私には何よりの喜びでございます。ありがとうございます。また、準備から運営まで本当にお疲れ様でございました。

片づけなど最後までお手伝いせず茨木駅でお別れしてしまいました。ぜひまたお手伝いに参ります。ありがとうございます。

(うかい ともよし) 東京都在住

㊦ 「皆さんの笑顔」



＜木下さん＞

とてもうれしかったのです。

できればこういうイベントを関東でも「障害」者リーダーの方とタイアップして出来たらいいなと思います。

また子どもにも参加させたいと思いました。自分が小学生の頃、「障害」児クラスは学校にもありましたが全く交流はなく、特殊な人という目で皆見ていました。

今の学校はそうではなく、一緒に出来る事は一緒にする様ですが、さらに交流を深められたらと思います。

(きのした しげお) 横浜市在住

㊧ 「しまなみ海道」イベントに参加して

CVJ 会員 浦川 勝己

まず、私自身のことを紹介させていただきたいと思いますが、昨年12月まで、30年間競輪選手をしていました。

競輪の収益はいろいろな事業や福祉の補助に利用されています。競輪も社会貢献していますが、そこに携わってきた元選手として、これからも何かできないかと思い、NPOの実態、作り方の講習を受けているうちに、放置自転車を「障害」持っている方といっしょに再利用できないかと地元の市議員の方に話しを聞きに行ったりしていました。



＜浦川さん＞

また、「障害」を持っておられる方の現状を今回参加された森俊博君のお店で話をしているうちに「しまなみ海道イベント」のパンフレットを見せていただき、一度大島さんとお会いしたらとアドバイスを受け後日、森君のお店で大島夫妻と話をさせていただき、その場でCVJ（サイクルボランティア・ジャパン）に入会しました。

今まで「障害」を持っておられる方とあまり関わりがなく、私の妻が「あなたにすべてを受け入れられるの」と言われ、口では「だいじょうぶ」と言いながら、少しの不安はありました。

それを妻は「わかっていたのでしょう。なにせ選手時代、それも 20 代・30 代の頃は特に地球は自分を中心に回っていると思いながら生活をしていましたから、選手生活が後半になってきた時、娘が生まれ（現在は小学校 1 年生。とってもかわいいですよ。親ばかですが・・・）生活も心も変わってきました。

家族との関わりも、やっとわかってきたような気がします。（今まで支えてきてくれた妻に感謝）

「しまなみ海道」イベントの前々日に大島さんと西宮市にタンデムを取りに行きました。

なるほど体力もあり、早く茨木市に着きました（約 25 キロ）が、全然タンデムを楽しめていなく、自転車で速さを求める生活でしたから仕方のないことですが、変わっていかないと…という思いを強くしました。

また CVJ も初めて、ボランティアも初めての私でした。

すべてに関わろうと意気込みがいっぱいでした。

でも関わり方がわからず、その中でもできることからやっといこう。（選手生活 30 年、緊張のなかで開き直すことは身につけていましたから…）

「しまなみ海道」イベントでは、この借りてきたタンデムのパイロットとしての役割を担うことになりましたが、タンデム自転車は参加者の方々が普段から乗る機会がないと思うので、たくさんの人に乘ってもらおうと意気込み過ぎ、普通でいいのにな。視覚「障害」の中馬さんにも体験してもらって、少しでも喜んでいただけたかな。

でも安全面を考えるといろいろな面でやさしさの押し売りだったのかな。自暴自棄に少し落ち入りました。

でも、身につけていた開き直り、妻の「すべてを受け入れられるの」は、現在も進行形。

夜のイベントはいろいろ話すことを考えていたのですが、何せはじめてなもので半分も話せませんでした。（またの機会に）

大きな事故はなかったのですが、自分自身の反省点はたくさんありました。次のイベントに活かせるようにします。

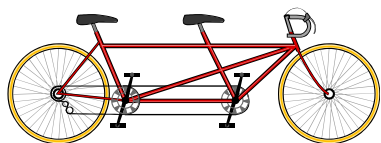
竹沢代表、瀬戸副代表そして大島副代表に準備していただきありがとうございました。

最後にみんなの笑顔で心が洗われ、元気をいただき、最初の一步 私を成長させてくれたイベントでした。

みなさまに感謝いたします。

また、お会いできる日を楽しみにしています。

（うらかわ かつみ） 茨木市在住



⑨ 「しまなみ海道」サイクリングに参加して

CVJ 会員 金木 章



＜金木さん＞

新型インフルエンザが発生し、大阪を中心に蔓延を始めた時、このイベントの実施か、中止か、ぎりぎりまで決断を迫られ主催者のご苦勞がよく理解できます。

この種イベントに参加するのは、初めてであり予備知識もなく、十分な理解もないまま、いただいた「イベント概要」を頼りに、岡山 I C から途中乗車。

私は、自転車 A グループだが CV J 会員と一般ボランティアの顔と名前が解らず、昼食時にやっと自転車 A のメンバーを見つける事が出来た。「瀬戸内荘」での全体交流会、参加者交流会、さらには翌日のサイクリングと、有益な交流ができたと思う。

ただ、私個人としては、ボランティアとして参加しながら、その責務が果たせたか反省がある。

このイベントの企画、立案、実施、統括された関係者のご苦勞に敬意を表し感謝申し上げます。

(かねき あきら) 岡山市在住



⑩ 『しまなみ海道ツーリング』感想文

CVJ 会員 渡邊 克己

『案ずるより産むが易し』私の心配は杞憂に終わった。

どうしても肩に力が入るのは当たり前だ、その思いを払拭すべく、ドーンと構えていこう！と思っていたのが良かったのか、大変楽しい時間を過ごさせていただいたと素直に感じることもできる、1泊2日のサイクリングであったと思う。

＜渡邊さん＞

今回のイベント参加でつくづく感じることは（人の心）という温かいものに触れることができたこと、またそれを素直に感じる事ができる自分があるということか、と思うのである。

額に汗し、ただ人のためにみかえりを求めず、自然に身体を動かす多くの人たちがいることの現実は何よりも貴重で、この世も捨てたものじゃないな、を実感する体験であったし、自分自身もその一員になれたという思いと、大切なものをいただいたと気付かせてもらった本当に貴重な体験をしたのだと思う。

また、日常的に生活を共にしている家族の方の明るく元気で前向きな生活態度にも感心したし、「障害」をもつ子の純粋な心に触れ、ただそれだけで何か自分に力が湧き出すような不思議な



＜渡邊さんと中川君＞

議なパワーを感じることができた、(事実、パワー全開で過ごすことができたのである)。

前情報として、体に触れられることを嫌うというミニ知識は彼のパワーで解決し、行程のほとんどの間、手をつなぎ、腕を組み、肩に手をまわし歩き続けることとなり、また少なかったけど会話もし、思い出を確認することもできたのである。

まったくもって、心が温まる体験であったのである。 多謝。

しまなみ海道の絶景は大自然と人工物の完全なる調和の見事さにある。

その橋の上をグリーンTシャツとショッキングピンクのTシャツを着、手をつなぎ歩く二人連れを木下さんが見事、写真に切り取ってくれていた。

言葉よりこの写真が、今体験のすべてを語っていると思う事ができ嬉しく思えたのである。

(わたなべ かつみ) 横浜市在住

【V】 イベント資料あれこれ 一順不同一

「イベント参加呼びかけ」 & 「実施要綱」 & 歌集
& 「参加申し込み書」 & 「イベント参加誓約書」
<別紙資料をご参照ください>

【VI】 当日アンケート集計結果

集計・記録担当；中島 東平

2009「しまなみ海道」サイクリングの旅・アンケート集計結果

提出者(集計対象者) = 28人(回答分のみ紹介)

①<1日目の昼食について>ひれかつ弁当

- ・美味しかった = 18人
- ・お腹がすいていたので食べられた = 2人
- ・時間がなかったから分からない = 1人
- ・食べていない = 1人
- ・大人の男性には足りなかったのでは? = 1人

②「瀬戸内荘」について

<1日目夕食について>

- ・美味しかった = 16人
- ・普通 = 7人
- ・もう少し量があればよい = 2人
- ・美味しかったけどゆっくり食べられなかった = 1人
- ・一杯お手伝いしました = 1人

<2日目朝食について>

- ・美味しかった = 15人
- ・普通又は十分 = 6人
- ・たくさん食べられた = 3人
- ・卵を調理して欲しかった = 1人
- ・味噌汁の味が変わっていた = 1人

<部屋・お風呂などの宿泊設備、全体的な感想>

- ・快適、満足、清潔等 = 8人
- ・お風呂が気持ちよかった、広かった = 7人
- ・妥当、十分 = 4人
- ・飲み物のフリーサービスが良かった = 2人

- ・ 本当にバリアフリーだった = 1人 ・ 風呂が2～3人で入ったら狭く感じた = 1人
- ・ お風呂を遅くまで入らせて貰えて良かった = 1人 ・ 風呂が熱かった = 1人
- ・ 設備よりも従業員の誠意を高く評価したい = 1人

③「バス」について

<行き車中の行動について>自己紹介・諸連絡・休憩など

- ・ 良かった = 11人 ・ 普通 = 1人 ・ 運転手さんの気配りに感謝 = 1人
- ・ 説明が長いわりに伝わってない、もっと事前の打ち合わせを = 3人
- ・ 自己紹介では顔が見えないので一度立って見回して欲しい = 1人
- ・ 初対面なので余り話がはずまなかった = 1人

<帰りの車中での行動について>レクレーション・主催者プレゼント・反省会など

- ・ 良かった、楽しかった = 12人 ・ 疲れていた、寝ていた = 2人
- ・ 帰りのクイズは荷物になるので答えなかった = 1人
- ・ 主催者からプレゼントをもらった = 1人

<バス全般について>設備・冷房・運転・座席など

- ・ 運転手さんが良かった、心遣いに感謝しています = 10人
- ・ 良かった(全体的に) = 10人 ・ バスの中が暑かった = 1人
- ・ 行きと帰りで座席が違ったが不都合はなかった = 1人

④イベント行事について

<「全体交流会」について>

○「キャンプ参加記念品」製作について

- ・ 竹とんぼが良かった = 6人 ・ 楽しかった = 5人 ・ 童心に返った気がした = 1人
- ・ ありがとうございます = 1人 ・ 怪我をしていて作れなかった = 1人
- ・ 皆さんご苦労様 = 1人
- ・ 最後の組み立てだけでも自分たちで行わせて貰えればもっと良いのでは? = 1人

○「なんでもコンクール」について

- ・ 楽しかった = 13人 ・ お陰様で一気に和むことが出来ました = 1人
- ・ 手話が印象的だった(みんなに覚えて貰いたい) = 3人
- ・ 参加型の出し物は皆のイベントだと実感が出来るのが良い = 3人
- ・ もっと皆で交流したり歌を歌ったりする時間を多めにとってはどうか? = 1人
- ・ 寝てしまっていました = 1人

○「ミニ体験発表会」

①竹沢荘一さんの話と映像について

- ・ 感動しました = 5人 ・ 長過ぎた。もう少し集約してみてもは? = 3人
- ・ 楽しかった = 2人 ・ 素敵な映像ありがとうございました = 1人
- ・ 一度、一緒に自転車に乗ってみたいです = 1人
- ・ もっとゆっくり見たかった = 1人 ・ 退屈だった = 1人

②浦川勝己さんの話と映像について

- ・楽しかった = 4人 ・感動しました = 3人 ・迫力があつた = 1人
- ・始めて聞く競輪選手の話で有意義だった = 2人 ・格好良かった = 1人
- ・長過ぎた。もう少し集約してみてもは？ = 2人 ・懇談的に聞きたかった = 1人
- ・競輪の純粋なスポーツとしての面白さを教えてもらいました = 1人

○「ちんどん玉すだれ」について

- ・楽しかった = 13人 ・見事な夫婦漫才と芸 = 4人 ・とても素人とは思えない = 2人
- ・これからもたくさんの方々に喜びを与えてください = 1人
- ・子供が育っていく中の夫婦のあり方の見本としたい = 1人
- ・最初にすれば盛り上がったのでは？ = 1人
- ・お手伝いさせて貰いました = 1人

⑤<サイクリング、タンDEM・徒歩グループのイベントについて>

※サイクリンググループに参加した人

- ・楽しかった = 5人 ・暖かい声援とサポートありがとうございました = 2人
- ・一部の障害者に対する対応が不十分
- ・走る順番が決まっていなかったのでアクシデントがあつた
- ・サイクリングの適度な距離が良かったです

※タンDEM・徒歩グループに参加した人

- ・タンDEMに挑戦してみて楽しかった = 4人
- ・タンDEMが気に入って貰えたようで良かった = 2人
- ・担当者制が十分に機能していなかった
- ・全体で見ると高い水準にイベントが運営されていたと思う
- ・担当の方の情報をもっと知っていれば戸惑うことは少なかったと思う

⑥<「しまなみ海道」イベント全体について> (準備・企画・参加費・サポートカー・役割分担・来年度実施にむけての要望。また、候補地など)

- ・満足だった(楽しかった) = 8人 ・時間的に余裕がなかった = 3人
- ・担当の障害者の方のことを事前に知っておくともっとスムーズに出来た = 2人
- ・参加費が安過ぎて主催者側の負担が心配です
- ・夕食後の懇親会にもっと時間をとってはどうか？
- ・参加者にボランティア担当者を選ばせて欲しい

⑦その他お気づきになられたこと

- ・ボランティアスタッフの方々のお疲れ様でした = 6人
- ・大島先生の負担が多過ぎたのでは？ = 3人 ・楽しかったから来年も参加したい = 2人
- ・ボランティアの役割分担を明確に把握するべき
- ・帰着時間が遅れることを保護者宅へ一斉通知するように出来ないか？(遅れること自体は仕方がない)

<今回の企画を採点するとしたら>

- ・120点 = 2人 ・100点 = 9人 ・90~99点 = 6人
- ・80~89点 = 3人 ・70~79点 = 2人 ・60~69点 = 0人

<来年もこうした計画をしたいと思っておりますが、来年も

- ・是非参加したい = 16人 ・参加を検討しても良い = 5人 ・不参加 = 1人

【VII】 イベント会計報告

<収入の部> 73万9500円 (①~⑤合計)

- ① 竹沢代表寄付(昨年度分残金の一部) 10万円 ②参加費 383500円 (23家族分)
- ② ボランティア分参加費 242000円 (21人分) ④カンパ 10000円
- ⑤ キャンセル代 4000円

<支出の部> 97万5555円

- ①京阪バス関係 213725円 ②サポートカー関係 17819円 ③宿泊費(旅館) 470500円
- ④傷害保険 27120円 ⑤レンタバイク 40000円
- ⑥お礼 50000円 (ドライバー、ゲスト)
- ⑦イベント関連費用(昼食弁当、救急薬品、文具、マスク、消毒薬品、タンデムレンタルなど) 90891円 ⑧ボランティアTシャツ代 25500円
- ⑨その他(要綱・歌集など用紙代・印刷代金、発送、連絡費、下見など) 40000円

<各収入明細・領収書などは竹沢代表の方で保管していただいております>

<関東地区からのCVJ参加者には、竹沢代表より交通費補助がされています>

【VI】 「しまなみ海道」イベント報道 (順不同)

- ①「CYCLE SPORTS」誌 2008年5月号 237P 掲載
- ②<山陽新聞>2009年5月25日付 朝刊 24P<この報告集5P参照
- ③FM 枚方出演 (3/14、3/15再放送) 大島 (20分間放送)

作成日 2009年03月25日

「しまなみ海道」サイクリングイベントの
ボランティア(一泊二日)

5月24日(土)~5月25日(日)
集合:ラポール8時20分/解散:18時頃
しまなみ海道(愛媛県・今治市一広島県・生口)

【募集人数】
多数、個人・グループでの参加歓迎。
但し、宿泊費等の自己負担要(18,000円/人/1泊2食付)

【内容】
●最良の専用車とウォーキングでトライ
●自転車(タンデム車、子供用自転車)に同乗or伴走する
●難易なコースなど
●地元サイクリングサークルのサポート協力あり

【募集団体】サイクルボランティア・ジャパン
URL: <http://www.cyclopia.org/>

【メッセージ】
●サイクリングの楽しみを自ら味わうだけでなく、多くの人たちにその楽しさを伝えたい。そして、海外サイクリングとの交流や支援、障害者(子ども)へのサイクリング普及活動、緊急災害時に被災者を支援するための支援活動の実施など、『自転車』という媒体を通していろいろな社会貢献ができればいい。募集期間で、平成20年5月に開催された団体です。
●しまなみ海道(本州→四国間の瀬戸内海000km)を今年健かけての「サイクリング横断記録達成」にぜひトライませんか?

心身にハンディを有する人と
ともに走る「しまなみ海道
サイクリング」を5月に実施

心身にハンディを有する人
たちに安全にサイクリングをしてみ
おうと結成された「サイクルボラン
ティア・ジャパン」(CVJ)では、「青
い鳥ことばの会」と協力して昨年に引
き続き本州・四国を走破する「しま
なみ海道サイクリング」を実施する。2
年間かけての取り組みで、昨年も参加
した人は「サイクリング横断記録達成」
へのトライを、参加していない人は地
景の体験を目指して参加しよう。
記念品製作や花火大会などサイクリ
ング以外のお楽しみも盛りだくさん。
また、自販車を通じて社会貢献がで
きる貴重な機会となる。

●申し込み締め切り:4月23日(木)
●期日:5月23日(土)~24日(日)
●場所:愛媛県今治市・尾道市瀬戸
田町 ●参加費:1万3000円/
中学生以上※1泊2食、諸費用を
含む。集合地点までの交通費は別。
レンタサイクルを利用しない人は
1万1500円 ●問い合わせ先:
大島 政広 ☎090-6370-6244
(cshimada@yfnoo.co.jp)

<左>「サイクルスポーツ」5月号

<右>「枚方ボランティアセンター」イベント案内

作成日 2009年03月25日

「しまなみ海道」サイクリングイベントの
ボランティア(一泊二日)

5月24日(土)~5月25日(日)
集合:ラポール8時20分/解散:18時頃
しまなみ海道(愛媛県・今治市一広島県・生口)

【募集人数】
多数、個人・グループでの参加歓迎。
但し、宿泊費等の自己負担要(18,000円/人/1泊2食付)

【内容】
●最良の専用車とウォーキングでトライ
●自転車(タンデム車、子供用自転車)に同乗or伴走する
●難易なコースなど
●地元サイクリングサークルのサポート協力あり

【募集団体】サイクルボランティア・ジャパン
URL: <http://www.cyclopia.org/>

【メッセージ】
●サイクリングの楽しみを自ら味わうだけでなく、多くの人たちにその楽しさを伝えたい。そして、海外サイクリングとの交流や支援、障害者(子ども)へのサイクリング普及活動、緊急災害時に被災者を支援するための支援活動の実施など、『自転車』という媒体を通していろいろな社会貢献ができればいい。募集期間で、平成20年5月に開催された団体です。
●しまなみ海道(本州→四国間の瀬戸内海000km)を今年健かけての「サイクリング横断記録達成」にぜひトライませんか?

心身にハンディを有する人と
ともに走る「しまなみ海道
サイクリング」を5月に実施

心身にハンディを有する人
たちに安全にサイクリングをしてみ
おうと結成された「サイクルボラン
ティア・ジャパン」(CVJ)では、「青
い鳥ことばの会」と協力して昨年に引
き続き本州・四国を走破する「しま
なみ海道サイクリング」を実施する。2
年間かけての取り組みで、昨年も参加
した人は「サイクリング横断記録達成」
へのトライを、参加していない人は地
景の体験を目指して参加しよう。
記念品製作や花火大会などサイクリ
ング以外のお楽しみも盛りだくさん。
また、自販車を通じて社会貢献がで
きる貴重な機会となる。

●申し込み締め切り:4月23日(木)
●期日:5月23日(土)~24日(日)
●場所:愛媛県今治市・尾道市瀬戸
田町 ●参加費:1万3000円/
中学生以上※1泊2食、諸費用を
含む。集合地点までの交通費は別。
レンタサイクルを利用しない人は
1万1500円 ●問い合わせ先:
大島 政広 ☎090-6370-6244
(cshimada@yfnoo.co.jp)

お問い合わせ: 枚方ボランティアセンター(ラポールビルから1階)
★電話:072-861-0181 ★FAX:072-841-0182



【参加者募集】

「しまなみ海道」サイクリングの旅

本州・四国を結ぶ瀬戸内海をわたる全長40kmの「しまなみ海道」を、「障害」を持つ方たち、ボランティアと共に、自転車で行ってみませんか。

昨年に引き続き、今年は四国側から生口島までを走ります。サイクリングに自信のない方は、バスで移動、徒歩や漕ぎをわたることも可能です。

自身に「障害」を持つ方々とご家族の参加者、及びボランティアの参加者を募集しています。

■日程：5月23日(土)～5月24日(日) <雨天実施>

■宿泊場所：「瀬戸内荘」(愛媛県今治市)

■内容：「しまなみ海道」サイクリング、記念品製作、花火、似顔絵体験、参加者交流会、瀬戸内観光など

■費用：中学生以上 13,000円、小学生 9,000円(一泊し、レンタルバイクを利用されない方は上記よりマイナス1,500円) 幼児 3,000円

■集合・出発：5/23 8:20 ラポールむらかた橋

■解散：5/24 19時頃(予定) 上に向い

■問合せ・申込：090-6370-6244

oshima921@yahoo.co.jp (共に、大島) まで

(定員55名になり次第、申込打ち切り)

・詳しい内容は、「サイクルボランティア・ジャパン」のホームページ内<イベント>で、ご覧いただけます。

http://www.cvjapan.org/w/event/

[[「サイクルボランティア・ジャパン」、または、

「cvjapan.org」で、検索可能]

【イベント情報・ボランティア情報など募集しています】

介助ボランティア

障がい者の皆さんと「しまなみ海道」をウォーキング&サイクリングしませんか？

日時：5/23(土)～24(日)1泊2日

宿泊場所：愛媛県今治市「瀬戸内荘」

参加費：13,000円

参加締切：4/23(木)

詳細は問い合わせてください。

【問合せ先】

サイクルボランティアジャパン(CVJ)関西 担当：大島

TEL：090・6370・6244

Eメール：oshima921@yahoo.co.jp

KSKP(きぼう) 第三種郵便物認可 通巻8203号 2009年4月6日発行

KSKP

きぼう臨時号



平成20年度協会支部ニュース 6

日本二分脊椎症協会大阪支部事務局

藤井寺市小山1-4-28

小倉 (072-953-1789)

福永 (072-684-2435)

<左>「Lip」紙、<右上>枚方NPO
広報紙、<右下>「きぼう臨時号」
表紙の一部

- ④FM 福山出演 (5/12) 竹沢代表 (8分間放送)
- ⑤枚方NPO センター広報第40号
- ⑥日本二分脊椎症協会 大阪事務局発行「きぼう臨時号」(4Pにわたって掲載) 4/6
- ⑦イベント情報紙「Lip in HIRAKATA」(09年4月号掲載)
- ⑧枚方ボランティアセンター→イベント案内
- ⑨枚方NPO センター発行情報紙「GOGO ボランティア」掲載

【VII】「しまなみ海道」イベント協賛・協力

- (ア) アウトドアショップ株式会社「モンベル」協賛(自社製品の提供)
- (イ) 株式会社「オージーケーカブト」協力(参加者へのヘルメット貸し出し)
- (ウ) サイクリングターミナル糸山 協力(参加者への記念品提供)

【VIII】編集後記

「しまなみ海道」2年目の「報告集」が、イベント時同様多くのみなさまの協力を得て、発行することができました。イベントでの感動のあれこれを多くの方々に共有していただければ編集者としてこれに勝る喜びはありません。また、来年(2010年)5月29～30日(日)にはイベントの第3弾として「小豆島サイクリング」の企画を現在進めております。来年もみなさま方との再会を楽しみにしております。(おおしま まさひろ)